

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	プロジェクト・ベースド・ラーニングを活かした地元企業との協働プロジェクト				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	国保 祥子
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	国保 祥子

講演題目	プロジェクト・ベースド・ラーニングを活かした地元企業との協働プロジェクト
研究の目的、成果及び今後の展望	<p><b>①研究目的</b>          国保研究室では、3年次のゼミ活動をプロジェクト・ベースド・ラーニング形式で実施している。2019年度からは、学外の企業やNPOから与えられた具体的な経営課題をプロジェクト課題としてとり組み、年に2回の公開報告会を開いている。学生のプロジェクト学習に協力いただく地元企業との協働にあたっては、地域のネットワークと支援実績が豊富なNPO法人ESUNEに、協働先の紹介や、プロジェクト期間中の企業との調整などを支援していただいた。プロジェクト学習の内容については教員が指導するが、協働先企業とのラポール形成やコミュニケーションの部分でこのような第三者の支援を得ることでプロジェクト学習をスムーズに実施することが可能になる。</p> <p><b>②成果</b>          2021年度は、前期に空き家買取専科（空き家問題の分析）とよつば合同事務所（優良企業の分析）、後期に空き家買取専科（インターンシップの提案）、よつば合同事務所（障害者向けアクセシビリティの提案）、ナガハシ印刷株式会社（デザイン教育の提案）、一般社団法人草薙カルテッド（自治会支援の提案）、しずおか市消費者協会（組織変革提案）、認定NPO法人時ノ寿の森クラブ（新規事業提案）、もくもくセンター（プロモーション提案）と、のべ8団体との協働プロジェクトを実施し、最後は提案にまとめてプレゼンテーションをした。なお後期のプレゼンテーションに関しては右下のQRコードで動画を視聴することができる。</p> <p><b>③今後の展望</b>          昨年度までの課題を改善して実施したこともあり比較的問題なく実施できたが、企業側はすぐに現場で活用できる具体的な提案を期待しているという場合もある。しかし学生に対する学習効果としては本質的な課題を見つけることに重点を置く必要があるため、企業側からの期待値を適宜調整する必要がある。こうした実社会でも高く評価される成果と学生への学習効果を両立するためにはプロジェクトのコーディネーターが重要であり、その点では今後NPO法人ESUNEのような第三者の存在は必要不可欠であると感じた。</p>

